

再配達削減の取組紹介 & 宅配ボックスの体験利用を実施中

～ 平成29年7月3日～28日の約1ヶ月間、
再配達削減の取組紹介と職員による体験利用を
行っています ～

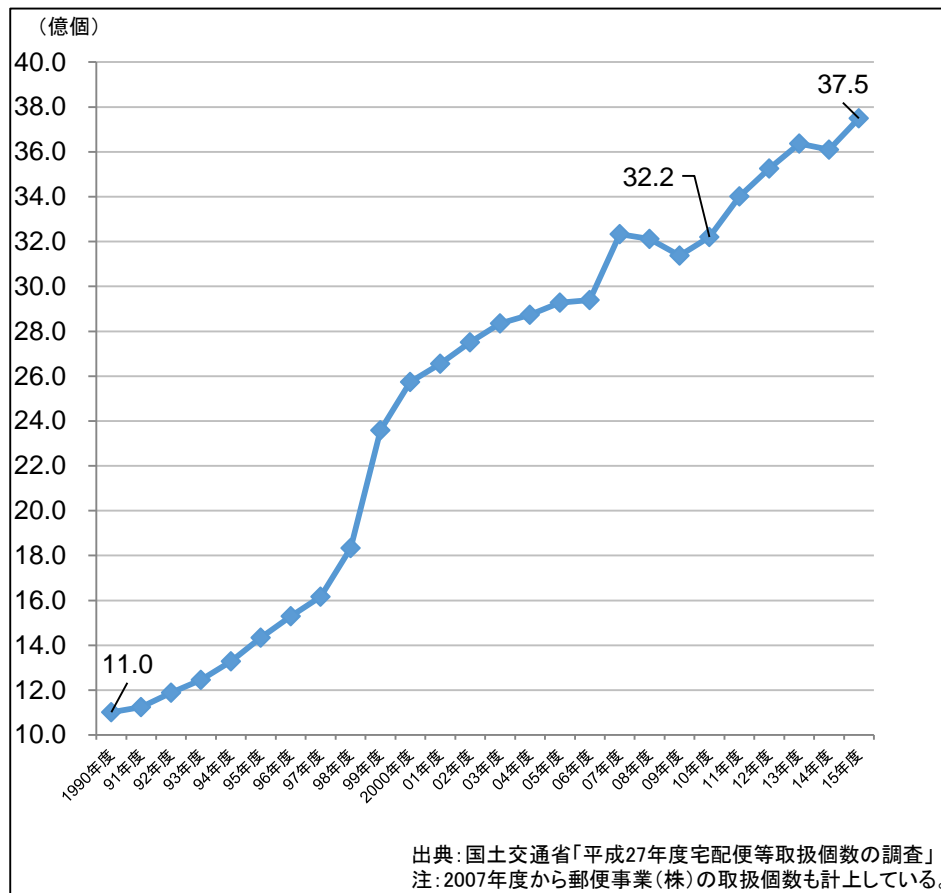
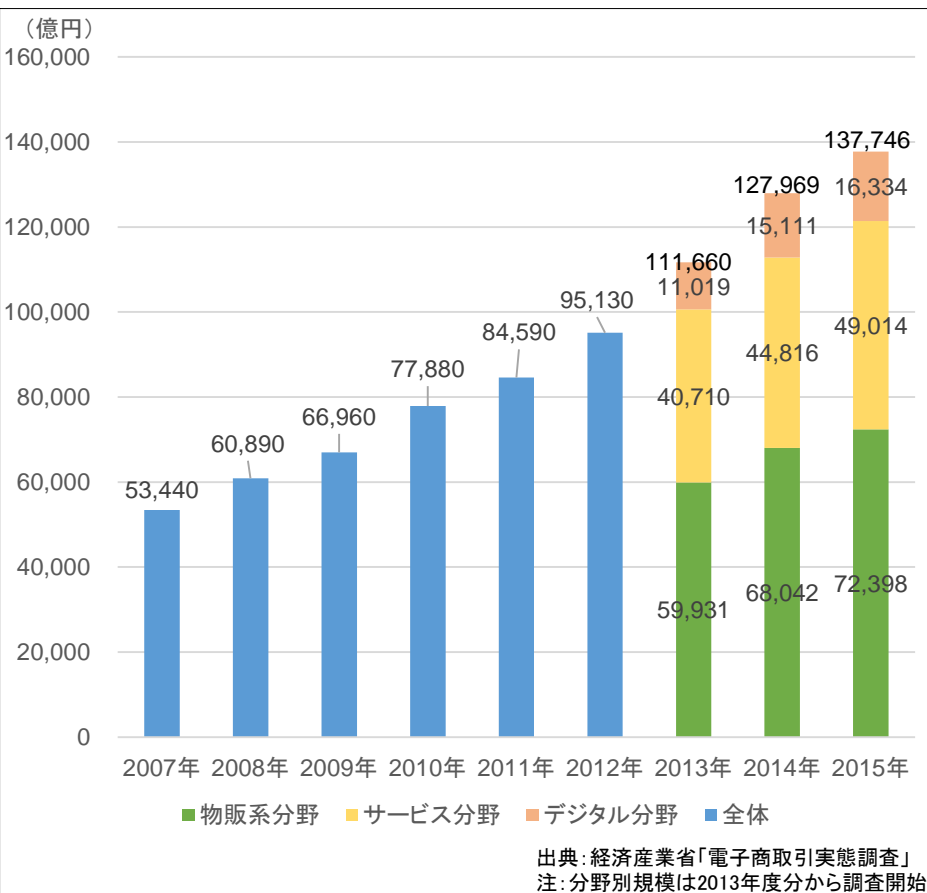
◆ポイント

1. 宅配便の取扱い個数は急増しており、平成27年度は37.5億個に達しています。また、宅配便の約2割は再配達です。
2. トラックドライバー不足が深刻化する中、宅配便サービスが持続的に提供されるためには、再配達を削減することが重要です。
3. そこで、再配達削減に向けた有効な取組、再配達削減のために活用して欲しい方法等についてご紹介しています。
4. また、再配達削減に有効な「宅配ボックス」について、その設置状況や活用の仕方についてご紹介するとともに、体験利用を実施し活用の促進を図っています。
5. なお、本体験利用の結果は、関係各者で共有・フィードバックする予定です

宅配サービスを取り巻く状況

E C市場規模の推移

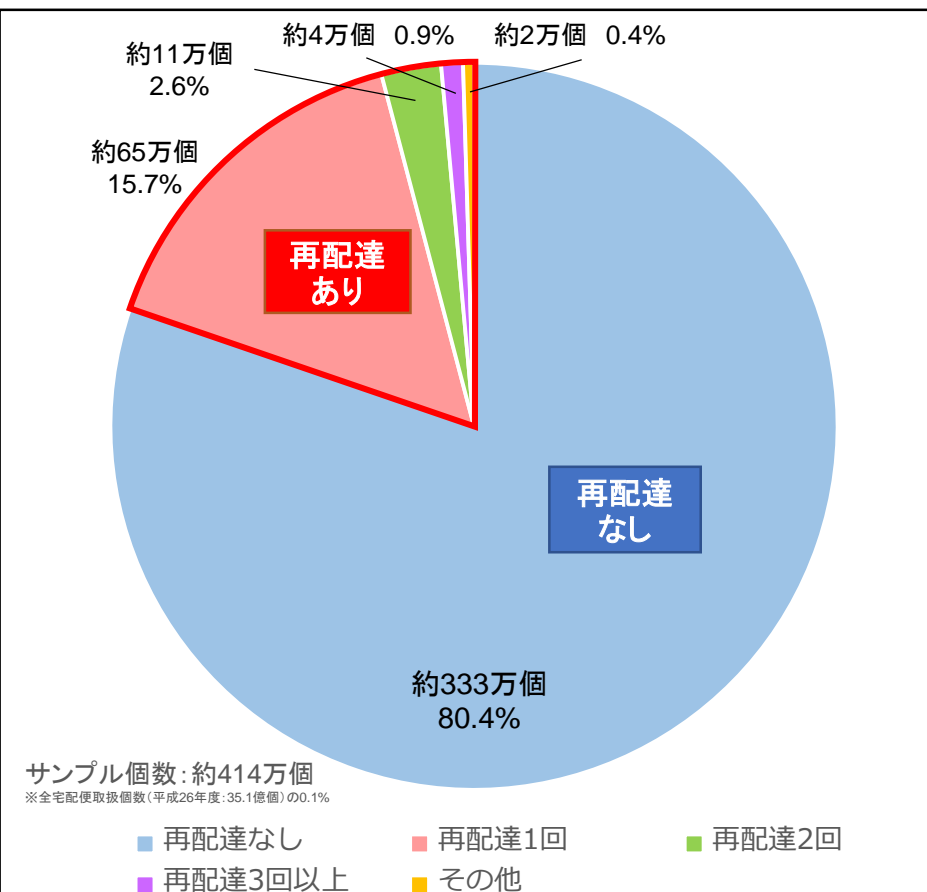
宅 配便取扱実績の推移



- 電子商取引(EC)市場は、2015年には全体で13.8兆円規模、物販系分野で7.2兆円規模まで拡大。
- EC市場規模の拡大に伴い、宅配便の取扱件数は5年間で約5.3億個 (+16%) 増加。

配 達完了までの再配達回数

再 配達にかかる社会的コスト



再配達のトラックから排出されるCO₂の量は年間でおおよそ42万トン

再配達により消費されている労働力は年間おおよそ1.8億時間(9万人分の労働力に相当)

EC市場の拡大に伴う宅配便の取扱件数の増加とともに、宅配貨物の不在再配達は全体の約2割発生している。

～宅配便の再配達削減のために～

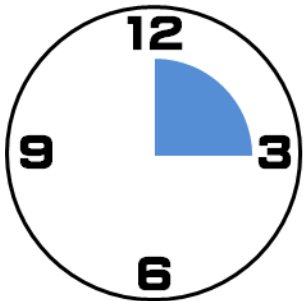
再配達削減のために**有効**な3つの取組

- ① 消費者と宅配事業者・通販事業者との間のコミュニケーションの強化
- ② 消費者の受取への積極的参加の推進
- ③ 受取方法の更なる多様化・利便性の向上



再配達削減のために**活用**をお願いしたい3つの方法

1. **時間帯指定**の活用



多くの宅配事業者や通販事業者では、受け取り可能な時間帯を指定できます。**便利な時間帯指定**を活用してみませんか。

2. **各事業者の提供しているコミュニケーション・ツール等（メール・アプリ等）**の活用

事業者によって、**メールやアプリ等の便利なツール**を提供しているところもあります。こうしたツールの活用で、**配達予定日時や受取日時の事前変更**など、簡単で便利に受取ることができます。



3. **コンビニ受取や駅等の宅配ボックスなど、自宅以外での受取方法**の活用

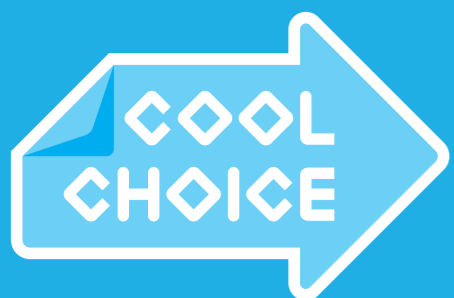


平日は仕事でなかなか受け取れない、出張や旅行先で確実に受け取りたい。そんな場合には、**コンビニや駅等の宅配ボックス、オフィスでの受取**など、**自宅以外での受取サービス**を活用すると、便利で確実に受け取ることが可能です。

※「**送料無料**」と記載されている場合でも…

通信販売のサイトなどで「**送料無料**」という記載を見かけることがあります。

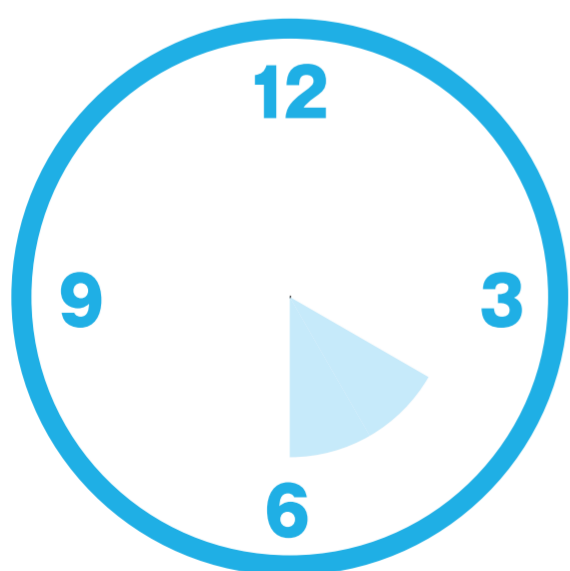
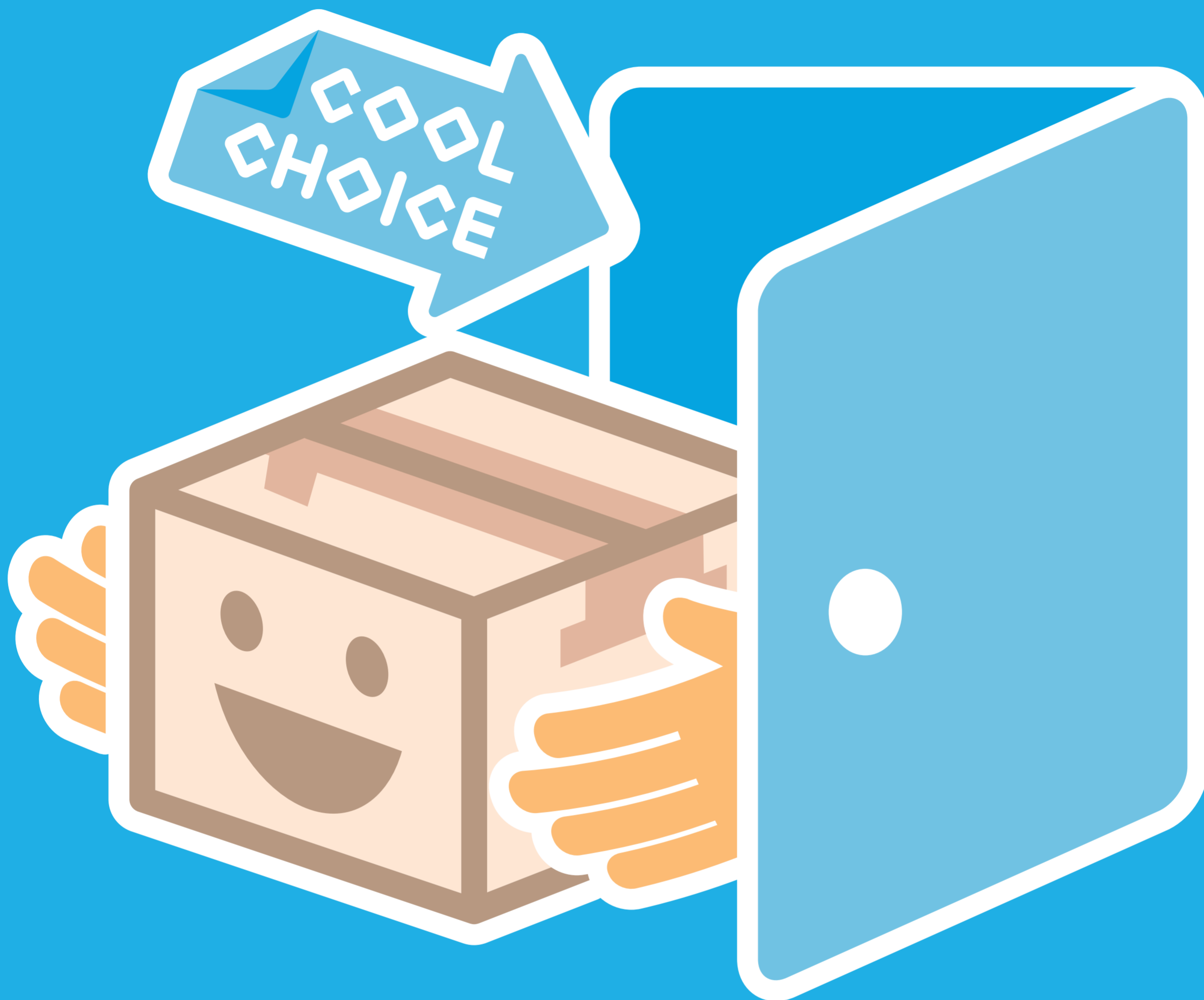
「**送料無料**」となっている場合にも、配送については実際にはコストが発生しています。また、再配達等一回で受け取れなければ、二酸化炭素(CO2)排出量の増加や労働生産性の低下による社会的損失が発生します。



COOL CHOICE

できるだけ1回で受け取りませんか キャンペーン

～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～



① 受け取る時間帯を指定



② 受け取る場所を指定

宅配業者の営業所・コンビニエンスストアなど

再配達の
トラックから排出される
CO₂はおよそ

42万ト

山手線内側の面積2.5倍の杉林が年間で吸収する二酸化炭素量に相当

出典：国土交通省「宅配の再配達の削減に向けた受取方法の多様化の促進等に関する検討会 報告書」

宅配便の再配達により
消費されている労働力は

1.8億時間

これは
例えるなら…**10人のうち1人**
のドライバーは、1日中再配達を
担当している計算になります。



Webサイトに各社の取り組みが記載されています。
平成29年4月17日現在、30団体・91社の企業からご賛同いただいております。

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/butsuryu/>



1回で受け取りませんか

